

<麻機と医療・福祉特区（ふじの国福祉バレー）構想>

■目的

日本の持っているあらゆるハイテクを注入し、高齢者、障害者、病気のある子どもや人が自立、共生できる街を構築する。日本だけでなく高齢化社会を迎えるあらゆる国や地域へのモデルタウンとし、日本の技術やインフラ輸出の柱に育てる。これらユニークで先進的な取り組みにより、静岡市が全国、世界から注目される存在となる。

■具体化のための方策

1) 福祉バレー情報センターの整備

福祉バレーの基地、事務局として、事業の推進と管理、情報の共有および発信を行う。研究・啓発のためのセミナー室や情報室、展示室などを併設し、作品や製品などの展示・販売も可能な設備を整える。

2) 企業の誘致

税金の優遇、土地取得の簡素化など技術開発特区としてのメリットをもたせ、目的に沿う企業を誘致する。

3) 道路の整備

自動運転特区のための道路網の整備を行う。

4) 居住区の整備

居住区を整備し、障害者の自立を支援するための技術開発が可能な生活訓練施設を誘致する。スポーツや生活に潤いを与える機会を提供する施設の整備も必要である。また医療や福祉に付き添う人のための宿泊施設を整備する。

5) 就労支援施設の誘致

多様な職種における就労支援技術開発を想定した障害者のための就労訓練施設を整備・誘致する。

6) 公園の整備

遊水地公園計画との整合性を図る。

7) 協議会の設置

医療・福祉特区実現のために下記のパートナーとの協議会を設置し、今後の具体的な方策及び運営について話し合う。

- ① 医療および医療関連機関
- ② 学校、PTA
- ③ 高齢者施設、障害者生活支援施設および関連ネットワーク
- ④ 授産施設・特例子会社等
- ⑤ 地域
- ⑥ 産業（福祉メーカー、IT メーカー、自動車メーカー等を含む）
- ⑦ 行政（市、県、厚生労働省、経済産業省、文部科学省、国土交通省、警察等）
- ⑧ 当事者
- ⑨ 学識経験者